
田舎を活かしたまちづくり

奥大野区

Q：1つの区でされているということですが、お金はどうされているんですか。

A：地域の村づくり計画と里力再生計画を立てて、奥大野が中心になって5地区で連携してやっております。奥大野区が5地区の中で一番大きい地区ですから、私が区長兼リーダーとして活動させていただいております。事業そのものは区だけではなかなかできませんので、里力再生計画を立てて、京都府や国の事業を入れながら、ハード事業、ソフト事業をさせていただいております。

Q：小さな町のような取り組みの仕方ですか。

A：大宮町は集落としては16しかないんですが、2,000人の集落から20人ぐらい集落までありまして、自治区に職員がいますので、そういった自治運営をしております。

全国ご当地鍋フェスタ「鍋ー1グランプリ」について

全国ご当地鍋フェスタ実行委員会

Q：始まりは個人からですか、行政からですか。

A：国民文化祭が京都府であったのですが、それに合わせて町でも何かしなさいということで、行政から各種団体にお声がけをして実行委員会を開催しました。

Q：鍋というアイデアは誰が出したんですか。

A：町の副町長が、キジ鍋が有名ですので、それを使ったイベントはないかということで全国を調べたところ、関東には鍋のイベントがあったんですけども、近畿地方では行われていなかったので取り組みました。

Q：きょう報告されたのは町全体の取り組みだと思いますが、スライドに区長会というのもありましたが、各集落の活性化とこのイベントがどうつながっていくのかが見えていたら教えてください。

A：おもてなしの心で、町外からどれだけ全国ご当地鍋フェスタに来てもらうか、どうやったら笠置町の観光とか地域のことをわかってもらえるかということで、実行委員会とか企画委員会で区長さんや教育委員会など全ての団体から意見をいただいて行っただけですけども、区長さんとのつながりは見えないというか、難しいところではあります。

Q：町全体のイベントにスタッフとして入っておられる方は、地域から出っておられる人と

かいろいろあると思いますが、そういう方の人材育成につながっているかどうかのポイントだと思うんです。その人が地域に帰って、またそこで盛り上げるという仕組みがないと継続しないと思っているんですが、そこら辺がどうかなということが聞きたかったんですが。

A：笠置町は小さい町ですので、区長が参加されればその地域は勝手にわいてくるというところがあります。ですので、そういう連携はあると思います。今までは観光協会、商工会という形で、住民からすると、勝手にやってるわという感じだったので、今回は各種団体に入ってもらったので、それなら協力しようかということで盛り上がって、その日1日はおもてなしの精神で行こうという感じになっています。

座長：鍋をきっかけにいろんな人がつながるというのはおもしろい取り組みだと思いますし、鍋で一過性に終わらずに、次のイベントでもそのプラットフォームが生かせるといいなと思いました。おもしろい発表でした。

地域資源掘り起こしと地域情報誌発行を活かしたふるさとづくり

NPO法人 奥播磨夢倶楽部

座長：情報誌の作成を通じて元気な人づくりと楽しいふるさとづくりを目指そうという活動でしたが、発行のお金をどういうふうに集めていらっしゃるのかをお聞かせいただければと思います。

A：これまでは宍粟市の事業でしたので、印刷代は市から出していただいていたのですが、取材、執筆、編集、発行は全くのボランティアで5年間やってきました。このたびこの事業は発展的に解消し、NPO法人を立ち上げて、これからは独自に運営していくことになっています。

座長：収入源はなるんですか。

A：奥播磨ファンクラブというものを立ち上げて、賛同していただいた方に会員になっていただくのと、寄附金、市の事業で載せられなかった広告をこれからは載せていくことを考えています。

Q：つくられたものはどういう方法で出されているのか。

A：1冊100円で、道の駅や公共施設に置いておりました。行政はほとんど販売促進はしてくれていなかったのが、私たち編集委員のつてで独自の販路を見つけて売っていました。

座長：作成段階と読む段階の二重で地域資源に気づく段階をつくられているのはおもしろ

いなと思いました。発行を続けていただくことが地域の宝にもなると思いますので、ぜひこれからも続けていただければと思いました。

地域主体の連携による環境にやさしい街づくり

長岡中央商店街地域活性化委員会

座長：環境×商店街ということで、最初は私もハテナという感じでしたが、内容はよくわかりました。いろんな人がかかわるおもしろい取り組みだと思いますが、ご質問、ご意見等ございますでしょうか。

Q：環境というのは非常に地味なテーマだと思いますが、長岡京市さんはなぜ環境というキーワードを選択されたのでしょうか。

A：商店街が行政に相談に行かれると、商工とか商工観光課が窓口になりますが、こういう活動は本来の活動ではないということで、なかなか行政の参画が得られませんでした。そこで、商店街の理事長が私のほうに相談に来られて、環境であればかかわれるから環境一本で行こうということで、私を巻き込むために環境をキーワードにされたというのが正直なところですね。ただ、環境というのは非常に重要なキーワードですので、当初のきっかけはそうであったとしても、うまく時代に乗っているんじゃないかと思っています。

Q：環境の長岡京市ということですか。

A：今回、長岡京市からはこの発表会にも長岡第四小学校が環境で出ておりますが、長岡京市というのは特に観光資源もなく、商業についても、京都市の河原町に近いですし、交通の便がよくて梅田にもすぐ出られますので発展しないということで、地味ではありますが、環境都市を目指していくという姿勢を市は打ち出しております。

Q：私は奈良市ですが、平城京から長岡京に行かれたということで、由緒のある町同士、非常に親しみがあります。

A：長岡京市は「古の都から環境の都へ」というスローガンを打ち出しておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

座長：都つながりができたところで、お時間になりました。



ピンチをチャンスに変えて 花のまちづくり

六甲アイランドCITY自治会ローズガーデンファミリー

座長：ちなみに見ごろはいつですか。

A：バラ祭りの5月16日からの2週間あたりです。追加させていただきますと、マンションの中にある庭をバラに変えようということで今動いていまして、中に広げていくという活動をしています。

座長：ボランティアの方の活動頻度は。

A：毎週水曜日1時間、水やりをしています。雨が降る時期はやりません。ボランティアが今43名、60歳以上が3分の2、女性が多いです。手間はかかりません。バラの秘訣は思い切って切ることです。いろいろ勉強しましたが、やはり経験を積むのが大事だと思っています。

座長：単にバラを植えるだけでなく、お祭りをするとか、いろんな人がかかわるきっかけをつくったということがおもしろいなと感じました。

野菜と花と緑のタテニワ菜園花壇で地域の環境緑化づくり

ララファーム

Q：全くの素人ですが、土とか、水やりとかのメンテはどのようにされているのか。それから、植物はどのように成長していくんでしょうか。

A：初めは横向きですが、年を重ねていくと上のほうに伸びていきます。

メンテナンスは、普通のコンテナであれば夏場の水やりが大変で、1日2回ぐらい必要ですが、これは自動灌水をつけていますので、水やりの手間から完全に解放されます。それから、地面に植えますと5月、6月になると雑草との戦いになりますが、これは雑草は99%生えません。ですので、雑草からも解放されます。それから、入れかえが自由自在ですので、そのシーズンのものを入れると見え方が全く違いますし、そこにトマトがなったりということで、おもしろい景観ができます。そういうことが評価されて西宮の市長賞を2回いただいたり、兵庫県のガーデンショーでも市長賞をいただけたと思います。新しいやり方なので、これからだと思っています。

Q：肥料なども水と一緒にやるんですか。

A：そうです。普通の植木鉢を横にただけですから、普通の園芸技術が100%使えます。全く新しい技術なので実際やってみないとわからないところが多々あると思いますが、やってみると作業は非常に楽です。今コンテナの個数にして700やっていますが、普通700のコンテナを地面を植えると管理できません。